【町長挨拶】

昨日、3 月 11 日、この日は忘れることのできない日として、13 年を迎えました。

また、盛岡タイムスさんは今月いっぱいで廃刊されるということで、このように定例記者会見でご一緒することは最後になると思います。本当にお世話になりました。

【内容発表】（担当者が詳細説明）

1　臨時窓口開庁について（町民環境課）

町民の利便性向上のため、転入や転出手続きが集中する 3 月末と 4 月初めの休日に臨時に窓口を開きます。

日時は、3 月 31 日（日）と 4 月 7 日（日）の午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分までとなります。開庁する窓口は、役場 1 階の町民環境課及び税務課です。対応する窓口の手続き内容は資料に記載の通りです。臨時窓口開庁日にご都合が合わない場合、祝日を除く毎週水曜日は午後 7 時まで窓口を延長しています。

またマイナンバーカードをお持ちの方は、コンビニエンスストアで各種証明書を取得することが可能ですので、ぜひそちらもご利用ください。

2　万博国際交流プログラムモデル事業（オーストリア合唱交流会）について（文化スポーツ課）

内閣官房国際博覧会事務局が進める万博モデル事業として、オーストリアと関係を持つ 3 自治体（栃木県那須塩原市・山形県長井市・岩手県矢巾町）とオーストリアがオンラインで合唱の練習を重ねて各地から大阪市に集合し、リハーサルを経て市内のホールで、大阪市の中学生と合唱交流を行います。

日時は、3 月 17 日（日）午後 4 時から午後 5 時 30 分までです。場所は、大阪市天王寺区　大阪国際交流センター　小ホールです。参加者は、オーストリア＋3 自治体連合の生徒約 20 名です。オーストリアリンツ市（アダルベルト・シュティフター高校）、那須塩原市（三島中）、長井市（永井北中・長井南中）、矢巾町（矢巾北中）と大阪市中学生約 20 名が参加いたします。

3　農業集落排水処理施設における汚泥減容化の取り組みについて（上下水道課）

農業集落排水処理施設の処理コストの低減を目的とした取り組みについて、昨年度から実証実験、導入を行っているものです。処理場から発生する汚泥の大きな要因は、流入してきた汚泥を分解する菌が死滅したことによるもので、今まではその菌がそこに溜まると排出し、焼却していました。しかし新たに微生物を入れることにより、死滅した菌も分解され、結果的に汚泥の発生量を削減することが可能となりました。

今回 2 ヶ所の処理施設で導入した結果、90％以上の汚泥の発生量減少、20％以上の処理コスト減少が効果として確認できました。また副次的効果として、315ｔのＣＯ2 発生量の減少も効果として現れております。

矢巾町には処理施設はもう 1 カ所ありますので、そちらについても今後検討していきたいと考えております。

4　矢巾町応援アンバサダー委嘱状交付式について（企画財政課）

資料にはありませんが、矢巾町応援アンバサダー委嘱状交付式について説明させていただきます。

現在、工藤有紗さんと水本圭治さんの 2 名にアンバサダーとして活動いただいておりますが、今回 3 人目として、パラリンピアンの髙橋幸平選手に就任していただくこととなりました。髙橋幸平選手の委嘱状交付式を、3 月 15 日（金）午後 4 時から矢巾町役場　3 階　応接室において開催いたします。

【質疑】

≪矢巾町応援アンバサダーについて≫

記者

髙橋選手を 3 人目の矢巾町応援アンバサダーとして起用したねらいをうかがう。

担当者

髙橋選手につきましては、平昌パラリンピックと北京パラリンピックに出場されており、次のパラリンピックについても出場、そして金メダルを目指しているところです。本町としても、ご活躍いただくとともに矢巾町をＰＲしていただける方ということで、今回お願いをいたしました。

≪東日本大震災について≫

記者

3 月 11 日を迎えての所感と矢巾町の防災の取り組みについての評価をうかがう。

町長

昨日、3 月 11 日のトーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）の中ホールで行った東日本大震災の追悼式に出席いたしました。震災の年、私は県議会議員で、3 月 11 日は県土整備部の予算特別委員会の最終日でした。2 時 46 分、地震が起きたときにみんなが心配したのは、医大や病院が大丈夫かということでした。揺れがすごかったので、壊れないかと心配したのが今でも記憶に残っております。それから私も、洋野町から陸前高田市まで全部歩きました。特にも、陸前高田市にある松原苑という介護施設の屋上から津波にさらわれて何もない高田松原を見たとき、津波の恐ろしさを、身をもって感じました。それから災害ボランティアに参加させていただいた時には、大槌町では家の 2 階から顔を出して、あともう少しの辛抱だとみんなで励ましあっていたとお聞きしたこともあります。私は、3 月 11 日は何年経っても忘れることができ

ない日です。そして当時の目の当たりにした惨事をしっかり語り継いでいくということが私たちに課せられた課題ではないかと思っております。また、当時は寒さもあったので、周囲から板や薪を集めてドラム缶で暖を取っていたことも覚えています。

所感ということですが、その目の当たりにしたことや津波の恐ろしさ、そして「てんでんこ」、自分の命は自分で守るということをしっかり後世に伝えていかなければならないと思っています。また、昔の人がここから下には家を建てては駄目だという石碑を立てているにも関わらず、家を建てて被災してしまいました。そのようなこともまちづくりの中でしっかり考えていかないといけません。

そして矢巾町の防災の取り組みについてはどうなのかということです。津波の恐ろしさもですが、最近では能登半島地震もありましたが、地震の恐ろしさもあります。逃げる暇もなく、家の下敷きになって亡くなられたということがあります。まさか自分の家が潰されるということが考えられなかったのだと思います。矢巾町ではこれから、特にも寒さについて、暖房などについても取り組んでいかなければなりません。対岸の火事ではなく、我が事として、1つ1つ検証しながら本町の防災に取り入れていきたいなと思っております。

記者

東日本大震災追悼式が内陸開催になったことについての所感をうかがう。

町長

こちらについては、追悼というのは、沿岸被災地または内陸など、どこであっても意義があるものだと私は思います。ただ、沿岸の被災地の人たちのことは 1 日も忘れてはいけません。今回は盛岡広域 3 市 5 町が中心になって内陸で開催しましたが、内陸からもそういう思いで追悼、そして応援するということは意義があるものだと思います。今後の内陸での開催については、私は意義がある事だと思うため、継続して行っていただければなと思います。ただ、私も含め内陸の市町村長たちも、いずれ沿岸被災地に足を運んで追悼することも大切なので、お互い理解しあい、開催に当たっての思いをしっかりと認めながら対応していきたいと思います。

≪盛岡タイムスの廃刊について≫

記者

盛岡タイムスさんの廃刊の受け止め方についてうかがう。

町長

盛岡タイムスさんの廃刊については、関係者の方々の境地を思えば胸に迫るものがあります。歴史を閉じる、廃刊するという決断は断腸の思いだったと思います。盛岡タイムスさんには、町政やイベントを含め、お支えしていただき、非常にお世話になりました。廃刊になっても、後輩たちや町民の皆さんにも語り継いでいきたいと思います。本当に残念ではありますが、盛岡タイムスさんの社長さんをはじめ、記者の方々

のこれまでの功績に心から感謝申し上げるとともに、今後、立場が変わっても矢巾町のことをお支えいただきたいと思っております。

（9：20 終了）